

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 北九州市教育委員会 】

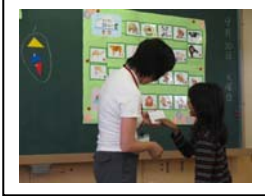
1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第3学年 図形	
(2) 単元名 長方形と正方形	
(3) 対象児童の実態 (1人)	
	第3学年 国籍(マレーシア) 母語(マレー語) 在籍年数(1年)
A 児	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の力 初期指導は終了している。日常生活に支障はないが、学習場面では母国で未習の内容があるだけでなく、学習言語を理解できないことが多いため指導を要する。 在籍学級での学習参加の様子 担任、専任教員の支援を受け、在籍学級の学習活動に他の児童とともに参加している。来日時は指を使って加減計算ができる程度だったが、在籍学級での算数科学習と並行しながら取り出し指導を適宜行い、加減乗除の計算ができるようになった。図形学習については、「さんかく」は分かっても「三角形」という言葉を理解できていなかった。 学習環境 専任教員による週4時間程度の取り出し、入り込み指導を行っている。
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 角の数、辺の数に着目して色板の仲間分け遊びをすることを通して、三角形と四角形を弁別できる。 不定形の紙を折ったり、かどを重ねたりする活動を通して、直角の意味を理解することができる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 図形に関する用語(「三角形」「四角形」「直角」)を理解することができる。 	

2 学習活動

指導者（帰国・外国人児童生徒教育専任教員）			
全体の時間数（1時間）単元総時数7時間の第1時を取り出して指導			
学習活動の状況、 指導内容	活動 方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
<p>①「三角形」「四角形」の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形，四角形の色板を使って形作りをする。 ・色板を「さんかく」「しかく」に分け，「三角形」「四角形」の名前を知る。 <p>②「三角形」「四角形」の色板から「直角」を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不定形の紙を折って直角を作る。 <p>・折って作った直角の紙を使って，色板のかどが直角になっているところを見つける。</p> <p>・直角の数で図形を仲間分けする。</p>	<p>取り出し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな大きさの形の三角形・四角形の色板を使って形作りを楽しみながら図形の学習に興味をもたせる。 ・色板を形で仲間分けさせ，「三角形」「四角形」の用語を知らせるとともに，「三角形」「四角形」の定義を確認する。 ・色板の「かど」の形が違うことに注目させ，「直角」を知り，仲間分けさせる。 ・不定形の紙をきちんと重なるように手本を示しながら折らせ，直角を作らせる。 ・「直角」の用語を知らせる。 ・重ねるときに，辺と辺，頂点と頂点をきちんと重ねて調べのように気を付けさせる。 ・見つけた直角には「直角シール」を貼って，直角がどこにあるかを見てすぐ分かるように意識付ける。 ・同じ四角形や三角形でも直角の数が違うことに気付かせ，次時以降の学習に生かす。 	<p>◇児童のレディネス調査から「さんかく」「しかく」については理解できていた。色板を使って形作りを楽しむことで図形学習への興味をもたせ，既習の言葉を「三角形」「四角形」と定義付けることができた。</p> <p>◆3つのかど，3本の直線に囲まれた形を「三角形」，4つのかど，4本の直線に囲まれた形を「四角形」であることを，仲間分けした図形を実際に手で触りながら確かめることができた。</p> <p>◇別の仲間分けの方法がないかを考え，かどの形が違うことから「直角」を教え，直角の数で仲間分けすることで意欲をもたせることができた。</p> <p>◆色板のかどと折って作った直角を重ね合わせることで直角かどうかを調べ，直角には直角シールを貼ることで直角のかどが一目見て分かるようにできた。</p>



<p>③ 練習問題をすすめる。 ・算数すごろくを使って練習する。</p> <p>④ 本時学習のまとめをする。</p>	<p>・すごろくゲームを楽しみながら、「三角形」「四角形」「直角」など、学習したことが理解できているかを練習問題で確認する。</p> <p>・三角形、四角形のかどには直角になっているものがあることを確かめる。</p> <p>・次時は在籍学級に戻り、今日の学習を生かして、さらに図形の特徴を調べることを知らせる。</p>	<p>◇ すごろくゲームの各マスに3色の星マークを入れ (1) 三角形と四角形を弁別する問題 (2) 直角を見つける問題 (2) 三角形・四角形を作図する問題に分け、パターンをかえた問題を数多く挑戦させることによって、本時の内容の定着を図ることができた。</p> <p>◆ すごろくゲームを通して、問題文や答え方に自然に慣れることができた。</p> 
--	---	--

3 成果

① 対象児童に対する成果

算数科学習に対して苦手意識をもっていたが、形作り、直角見つけなど、実際に図形を手にして操作する活動を取り入れることで、図形の特徴を理解することができた。また、すごろくゲームを使って学習内容を楽しみながら何度も練習することにより、自信をもって次時の学習に臨むことができた。

② その他

JSLカリキュラムを使っでの指導は、普段は日本語教室の中だけで行われるため、他の先生方に認知されることがない。この授業は研究発表会の一つとして授業公開をしたため、市内の帰国・外国人児童生徒が在籍する学校から参観に来ていた多くの先生方にJSLカリキュラムの考え方を理解してもらいよい機会となった。これからの指導に生かしていきたいという意見を聞くことができた。

4 課題

○ 授業前のレディネス調査から児童の反応を予想していたが、実際に授業をしてみると予想していたより理解させることが難しかった。特に「直角」を理解させる場面で折って作った直角を図形に重ねて見つけていく場面では、うまく見つけることができずに時間がかかった。児童が調べやすいように図形の数や大きさを考えておくことが必要だった。

○ 日頃から在籍学級の担任とは日本語指導記録を交換したり、話したりすることで児童の実態について情報交換をしている。しかし、取り出して指導できる時数が限定されるため、少ない指導時数で最大の効果を上げるためには、JSLカリキュラムの特色や有効性について担任に理解してもらっておくことが大切だと考えられる。